

堀金・穂高地区「里山文化ゾーン」 主なエリアの紹介

□里山文化再生エリア

田植えの体験学習、地域の風習・文化など安曇野らしい里山風景を再現します。



ほんむねづく
本棟造りの管理棟



ソバの花による修景（イメージ）



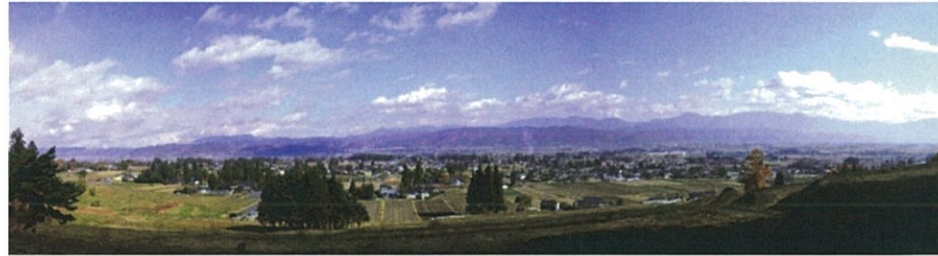
体験学習の実施（イメージ）

□棚田エリア

棚田内の園路沿いには、かつての安曇野の水田を彩ったナノハナ、ヒマワリ、レンゲ等の花修景のほか、棚田上部からは安曇野市街地方面の眺望も楽しみいただけます。



棚田内園路（イメージ）



棚田エリア上部からの眺望

□懐かしの風景エリア

のうかふうあすまや
農家風四阿や水車小屋による修景整備のほか、古田の再生や地域固有種の生息環境の保護育成を行い、「昭和30年代の安曇野の農風景」を再現します。



のうかふうあすまや
農家風四阿・水車小屋（イメージ）



岩原口ゲート棟（イメージ）

平成28年6月18日（土）
OPEN

草太（そうた）

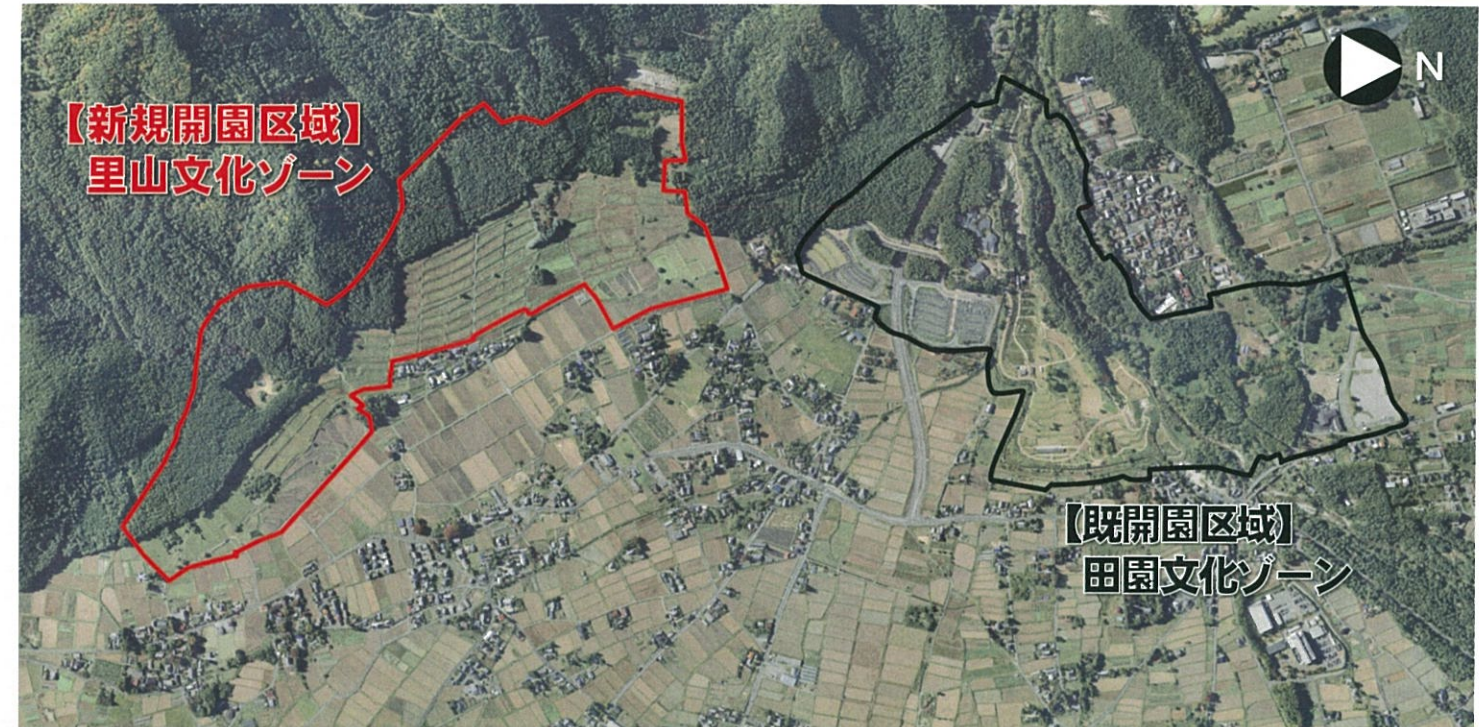


国営 **アルプスあづみの公園**
ALPS AZUMINO NATIONAL GOVERNMENT PARK

木子（もっこ）



堀金・穂高地区「里山文化ゾーン」 ～里山風景の再生と安曇野の風土の継承～



【新規開園区域】
里山文化ゾーン

【既開園区域】
田園文化ゾーン

堀金・穂高地区全景写真



里山文化ゾーン全体計画（イメージ）

平成28年6月18日 (土)

OPEN

堀金・穂高地区「里山文化ゾーン」の概要

堀金・穂高地区に新規開園する「里山文化ゾーン」をご紹介します。

ゾーンの特徴

■ 下記基本理念に基づく4つのエリアで構成され、広さは約49ha（東京ドーム約10個分）で、安曇野に伝わる懐かしい里山風景を再現

「景・文化の保全と創出」

安曇野に伝わる懐かしい里山風景を再現し、あわせて安曇野を象徴する花の風景を創出

「自然環境の保全」

人の生業のなかで育まれてきた草原環境の再生を通じて地域固有の生き物を保全

「交流・地域活性化」

保全・創出した環境を舞台に、里山で育まれた技能・技術や文化にふれあえる体験・学習の機会を提供



里山文化ゾーン全体図

① 里山文化再生エリア (約21ha)

里山で育まれた技能や文化を蓄積し、再生した古田を活用した田植え体験や貴重な昆虫の観察などのプログラムを通じて体験・学習の機会を提供

古田での田植え作業体験



地域の風習・文化（凍り餅づくり）



サンクチュアリと自然観察会

国内でも数少ないオオルリシジミの繁殖環境を保護育生する場



オオルリシジミ



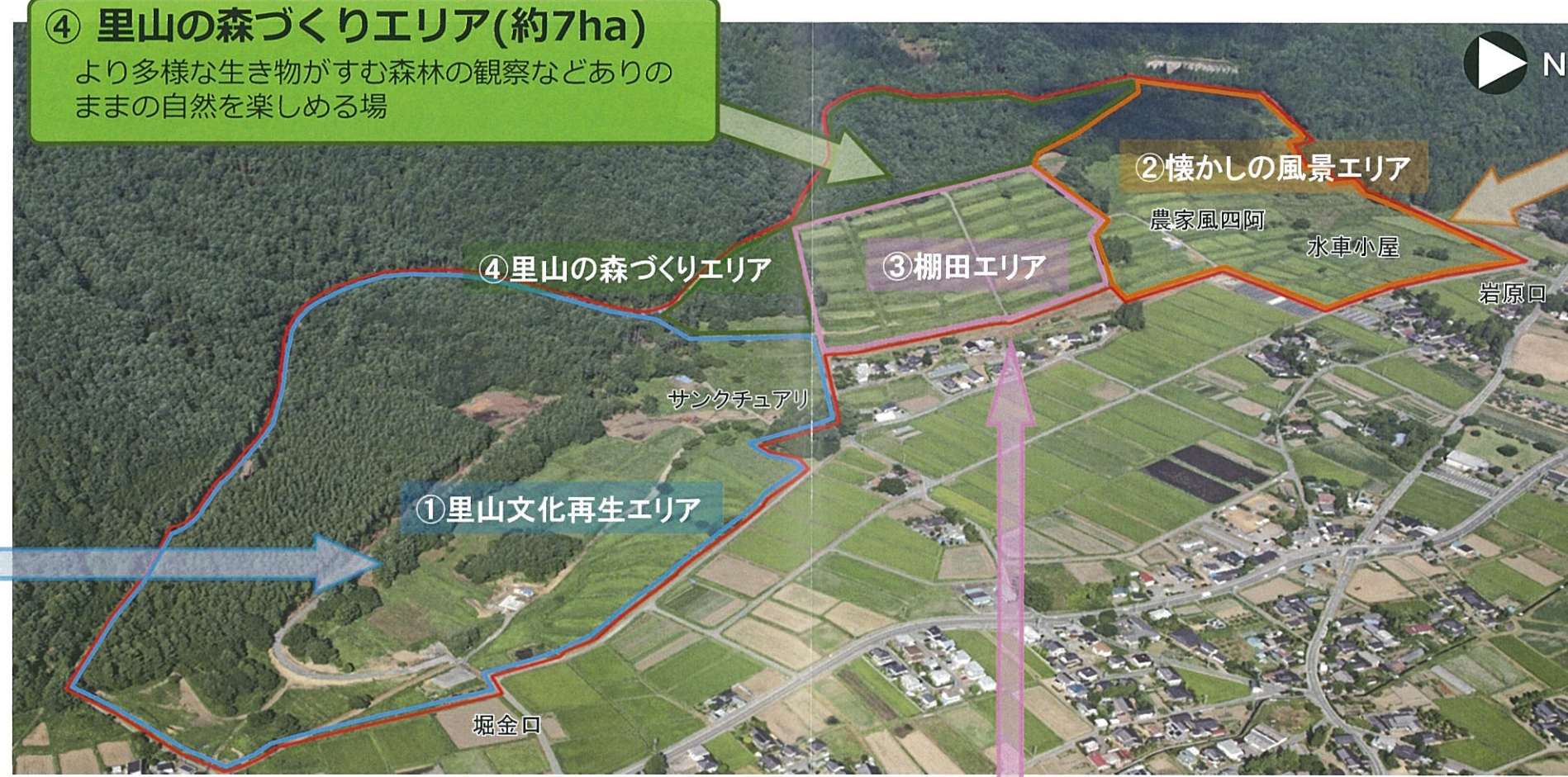
食草のクララ

■ 自然観察会のイメージ



④ 里山の森づくりエリア(約7ha)

より多様な生き物がすむ森林の観察などありのままの自然を楽しめる場



③ 棚田エリア(約7ha)

かつての安曇野の水田を彩ったレンゲや近年の安曇野の風景を象徴するナノハナ、ソバなど季節の花を楽しむエリア



ソバの花



ヒマワリ



棚田地形での花修景 (イメージ)

② 懐かしの風景エリア (約14ha)

既が開園している区域から最も近い入口となるエリアで、県の名勝指定(庭園)の大庄屋山口家の南側に位置。戦前から維持されている耕作地「古田」の再生や地域固有種の生育環境の保全育成などを通じ、昭和30年代の安曇野の田園風景を再生

古田 (ぬるめ※) の再生



※「ぬるめ」

稲の育成に適した水温を高めるための水路やため池の総称。本地区では、水田周りに巡らせた細い堰を「ぬるめ」と呼んだ。

エリア内に自生する主な希少植物



アマナ



アヤメ



懐かしい田園風景の再生 (イメージ)